

# 水産物を対象としたゲノム編集食品や昆虫餌料に対する消費者受容の動向調査

農学研究院 准教授：高橋義文 (gibun@agr.Kyushu-u.ac.jp)

環境、食料、健康

## 【概要】

「ゲノム編集技術（大人しいサバ）」や「低環境負荷型餌料（昆虫配合餌料）」の研究は、環境問題や食料問題の解決に貢献するイノベーションであり、社会変革を促すためにも推進すべき研究である。一方で、当該イノベーションが如何に有用であっても、それを享受する主体側に受け入れ意思がなければ、社会実装化されることはない。ゆえに、社会実装化を目指すのであれば、主体側の当該イノベーションに対する評価とその評価理由を事前に把握しておくことが重要である。

そこで本研究では、当該イノベーションに対する社会的受容性を定量評価し、その受容性に影響を与える要因を明らかにすることで、社会実装化の推進に資する情報を提供することである。

## 【研究計画および到達目標】

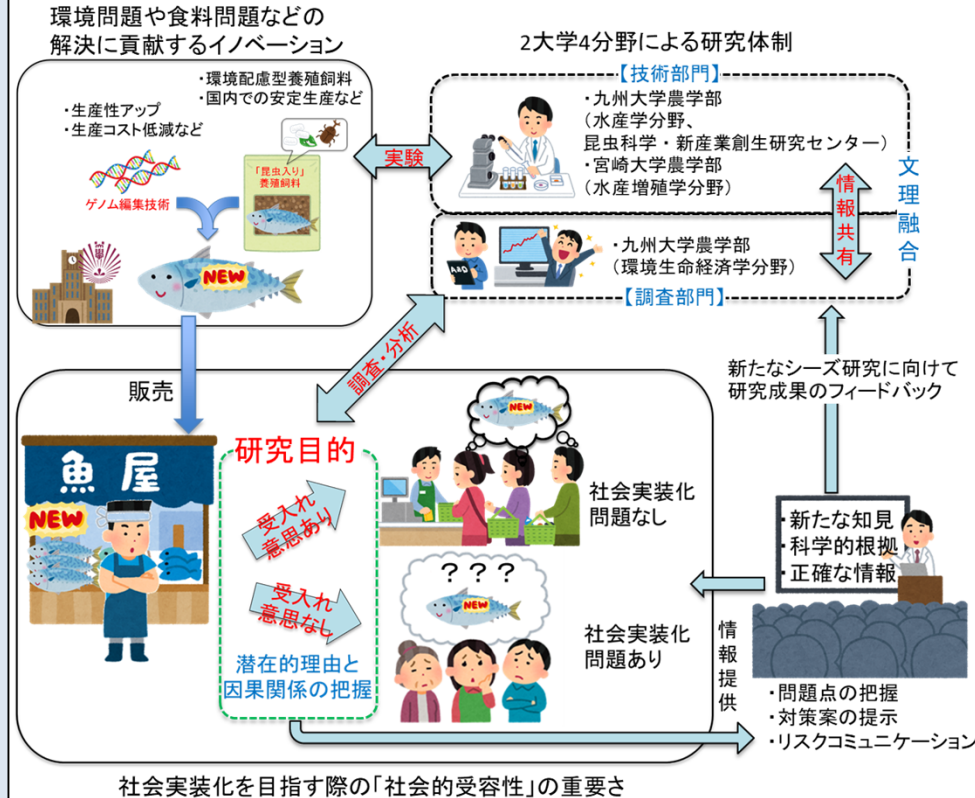
当該イノベーションに携わる「技術部門」からの科学データを用いて、「調査部門」が選択実験手法を組み入れたwebアンケート調査を実施する。配布対象は日本国内の消費者（2,000～3,000サンプル）とする。モデルには、潜在ラテントクラスモデルを採用し、消費者の異質性を考慮したタイプ別の分析結果を求めることで、社会実装化の推進に資する情報を提供する。

## 【強み・優位性（これまでの成果含む）】

本研究チームは、当該イノベーションに携わる「技術部門」と社会的受容性を評価する「調査部門」から構成された文理融合型の研究体制をとっている。また、本研究チームは、代表が異なるものの、JSTや厚生労働省などの外部研究費に応募するなど研究者間の連携も十分である。

## 【応用可能性・将来展開】

- ①消費者の抵抗感がより少ないマーケットインを考慮した新たな餌料開発研究のシーズを提供する。
- ②本研究で得られた対策案が有効であるかを販売実験で検証する。
- ③ゲノム編集技術に対する国内と諸外国の比較研究（法制度の違いや国民性の違いなど）を実施することで、対外輸出戦略を考える際の重要な情報となる。



## 【その他の情報】

- キーワード：ゲノム編集技術、昆虫配合餌料、社会的受容性、社会実装
- 科研費審査区分表における小区分：64060、40040